

油茶に見られる地方文化の生成過程と社会関係

1. はじめに

「油茶」とは、熱した鍋に茶油を注ぎ、茶葉を入れて炒め、水を注いで中火にし、数分煮だしたものである。煮出した茶はルウ・シエという杓子で濾過される。同じ茶葉を二回目以上利用する際に、まずルウ・シエで茶葉をたたいて茶を傷つけてから水を注ぎ、茶の成分を煮出す。そのため、油茶を入れることを「打油茶」という。油茶を食するときには、ピーナッツ、トウモロコシなどの具と、パクチーやネギなどの香料が加えられる。このような油茶を作る順番や具に多少の違いはあるものの、油で茶葉を炒り、茶葉を叩いて成分を煮出すという意味での油茶は、広西チワン族自治区、貴州省、湖南省などに居住する土家族、ヤオ族、苗族、トン族、漢族の間で広く見られる食習慣である (松下 2008 など)。

しかしながら、民族文化を観光資源とした場では、地域で広く見られる文化が特定の少数民族と結び付けられ、特定の民族固有の飲食文化として表象されている¹⁾。このような動きの背景には、2006年から中国で始まった非物質文化遺産保護活動による文化の公的認定・選別作業が指摘される。本報告では、三江トン族自治県のトン族の油茶を事例に、民族観光の場で文化要素がある民族の文化として表象されていく過程を考察する。

2. 三江トン族自治県の概要

本研究の対象であるトン族はシナ・チベット語系壮トン語トン水語支に属し、自称「カム」あるいは「チャム」という。三江トン族自治県は広西チワン族自治区の北部に位置し、1955年に広西チワン族自治区唯一のトン族の自治県として成立した (図1参照)。三江トン族自治県に居住するトン族は人口約35万人で、全人口の約6割を占めている。県内にはトン族のほかに、チワン族、苗族、ヤオ族、漢族が居住している。

三江トン族自治県は総面積2454平方キロメートルで、その約8割を山地が占めている (三江侗族自治県志編纂委員会 1992:1)。県内の名産品のひとつが茶葉である。県内の茶畑は13万ヘクタールで、年間の茶の生産は6000トン以上、茶加工工場が220あまりある²⁾。トン族の建築群と民族風情を中心とした観光業は県の重要産業である。

3. 油茶が飲まれる場

トン族では客が訪問した際にもてなしとして油茶が

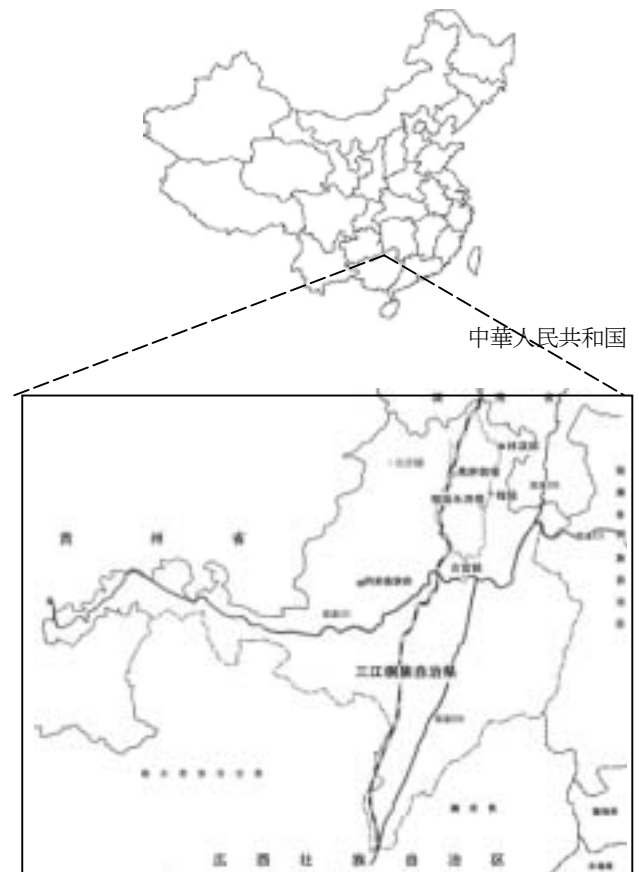


図1 三江トン族自治県の位置

用いられてきた。また、旧暦 3 月の谷雨節には、一年の農耕が順調であることを願って、油茶をつくり近所の人を招待する。また、出産、婚礼、葬儀などトン族のライフ・ステージでは必ず油茶が振舞われる。例えば婚礼では、花嫁が花婿の友人たちに油茶を振舞ったり、嫁ぎ先の近所の人々を集めて油茶を振舞う「シエ・マイ・メイ（新娘油茶）」がおこなわれる。油茶を通して、花嫁は嫁ぎ先の人々に認識され、新たなメンバーとして地域社会に受け入れられる。このように、日常や儀礼の場で飲まれる油茶は地域の間関係構築と維持の役割を果たしているといえる。その一方、谷雨節の油茶は現在では簡略化し招待する客を減らしたり、行わない家が増えている。その背景として、林郷街道「两委」会と林郷街道老協会による節日の簡略に関する通達が要因となっている。

4. 観光資源としての油茶とその表象

県誌には、油茶が県内のトン族、苗族、ヤオ族の食文化として記されている。その一方で、トン族の食文化としての油茶という表象は 1980 年代から見られる³。また、観光客向けガイドブックにトン族の油茶は「トン族文化」として紹介されていた。2000 年代に入って三江トン族自治州を訪れる観光客が増加すると、チケットには油茶の無料試飲の半券がつけられ、観光客は民族衣装を着用した女性を作る油茶を「体験」できるようになった。三江トン族自治州級非物質



写真 1 2011 年広西「三江春」茶文化節の様子
三江トン族自治州ホームページより

文化遺産にトン族文化として登録されている⁴。県ではトン族文化である油茶と茶葉の販売促進のため、2011 年「広西「三江春」茶文化節」を開催した。このイベントでは、観光客向けに百人のトン族の民族衣装を着た女性たちによる茶炒りと油茶の実演ショーなどが催された（写真 1）。新たな観光スポット建設として、県庁所在地である古宜鎮に「油茶街」を建設しており、現在 30 店舗が店を並べている。

5. 終わりに

油茶はトン族の間で広く飲まれてきたが、一部の節句では簡略化が見られる。1980 年代からの観光の高まりとともに、観光資源トン族の文化が注目されると、メディアや県の観光局や文化局によってトン族文化としての油茶が強調されている。この現象は、非物質文化遺産に油茶が登録されることで強化されている。

[注釈]

- 1 中国の民族観光の民族の実体化については鈴木（2011）、民族表象の政治性については塚田（2008）などの先行研究がある。
- 2 三江トン族自治州政府ウェブサイト www.cyq.gov.cn/html/2009525/64331-1.htmlより。
- 3 1980 年『人民中国』8 月号のトン族の探訪記事には、トン族の飲食文化としての油茶が紹介されている。
- 4 2008 年第二次広西チワン族自治区級非物質文化遺産に油茶制作はヤオ族文化として登録されている。

[参考文献]

- 松下智 1998 『茶の民族誌—製茶文化の源流』雄山閣出版。
三江侗族自治州志編纂委員会 1992 『三江侗族自治县』志中央民族学院出版社。
鈴木正崇 2011 「少数民族の伝統文化の変容と創造—中国貴州省トン族の場合」『現代宗教 2011』秋田書店 pp258-282。
塚田誠之編 2008 『民族表象のポリテクス—中国南部における人類学・歴史学的研究』風響社。